

③取引区分

取引区分	内容	発注データ	残高	蔵出	納期連絡
				データ	データ
10	店入売上	店入発注	+	店入売上	納期連絡
12				数量訂正後	
13				単価訂正後	納期訂正
18				数量訂正	
19				注残取消	単価訂正
20	返品			返品	
22				数量訂正後	
23				単価訂正後	
28				数量訂正	
29				単価訂正	

注 12, 22, 32, 42は、数量訂正後の正
13, 23, 33, 43は、単価訂正後の正

残高欄の+, -は、債権債務の残高に対する正負を示す

取引区分	内容	発注データ	残高	蔵出	納期連絡
				データ	データ
30	直送売上	店入発注	+	店入売上	納期連絡
32				数量訂正後	
33				単価訂正後	納期訂正
38				数量訂正	
39		注残取消		単価訂正	受注取消
40	直送返品			直送返品	
42				数量訂正後	
43				単価訂正後	
48				数量訂正	
49				単価訂正	
50	値引			- 値引	
59				+ 値引訂正	

7. 7. 2. 伝票ヘッダー

①日付区分

日付区分	出荷方法	欠品または納期に出荷できない場合	
		受注残の処理	納期連絡
0	受注後、速やかに出荷する	受注残とする	出荷できる期日を回答する または、受注取消を回答する
1	日付で示される期日に出荷する	受注残とする	出荷できる期日を回答する または、受注取消を回答する
2	受注後、速やかに出荷する	日付で示される期日までは受注残とする	日付で示される期日までに出荷可能な場合は、出荷できる期日を回答する 期日までに出荷できない場合は、受注取消を回答する
5	日付で示される期日に到着するよう出荷する	受注残とする	到着予定日を回答する

②納入区分

区分	内 容
0	発注企業コードで示される場所に納入する
1	直送先コードで示される場所に納入する
2	蔵出データの場合、すでに納入済みのもの(従来手順による発注分、返品等)
3	直送先コードが未登録で、店入れとして発注企業コードで示される場所に納入する
5	物流を伴わず、データ伝送のみの場合

③伝票区分

区分	内 容	区分	内 容
0 1	キャンペーン分	1 1	客注分
0 2	特売分	2 1	期間セール1
0 3	応販分	2 2	期間セール2
0 5	見本市分	2 3	期間セール3
1 0	定番商品	5 0	5 0 番以降リザーブ

注 伝票区分は、注釈として扱い、必要な時に使用します。制御(商品、納期、価格等)には使用しないでください。

④直送先コード

受注者と発注者との間で、直送先コードの未登録または不一致が発生した場合、受注者は納入区分を3(直送先未登録)とし、発注者に納入することを原則とします。

これは、納期遅れ防止の処置としますが、直送先コード不一致が発生した場合、並びに直送先コードの登録ルールは、受注者と発注者で相互に取り決めて運用してください。

7. 7. 3. 伝票明細

① JANとITFの使い分け (例)

項目	JANコードのデータ	ITFコードのデータ
JAN/ITFコード区分	0、1、2	5
JAN/ITFコード	ITF JAN C/D 空白 49XXXXXX12345 X (チェックジットは、JANで計算) (短縮の場合、左詰め)	ITF JAN C/D 0XX 49XXXXXX12345 X (チェックジットは、ITFで計算)
商品品番・記号	同じもの	
標準小売価格	同じもの	
数量 単位 単価	延べ数量=1,000本、単価=100円/本、 1梱=500本入りの場合	
	数量=1,000 単位=本 単価=100	数量=2 単位=梱 単価=50,000

②品番区分

品番区分を使用する場合は、受注者と発注者で相互に使用方法を取り決めて運用してください。

品番区分の値	内容	説明
空白	通常品番	通常のマスタ品番
1	マスタ登録外	マスタ登録が完全でない場合、手入力等で品番を補完
9	その他	修理、名入れ等で取引内容と品番が異なる場合 在庫管理対象外等

③発注番号の行番号の表示

統一伝票には、表示欄がありませんが、商品コード欄に余白があれば、同欄の左側に印字するようにしてください。

7. 7. 4. 伝票トレーラー

直送先への伝送を必要とする文字情報(摘要)がある場合に使用します。従って、納入区分=1(直送)の場合のみ使用可能です。
使用する場合は、摘要を統一伝票に表示(統一伝票の④欄を推奨)してください。

7. 8. 項目間の関連と使用例

7. 8. 1. 項目間の関連

区分項目は、次の組み合わせで使用します。

(発注データ)

	伝票ヘッダー データ区分	取引区分	納入区分	内 容
ファイルヘッダー のデータ区分 10 発注	10=発注	10=売上 30=直送	0=店入 1=直送	納期区分 0=納期無し(受注後、速やかに出荷) 1=開始納期(示される日に出荷) 2=終了納期(示された日までに出荷)
		19=注残取消 39=直送取消	元のデータ と同一内容	納期連絡のあった発注残(受注残)を取り消す場合 全数(元のデータの行単位)で取り消す。
	15=発注取消	元のデータと同一内容		VANからの受信時に同一ファイル内に取消対象 データが存在する場合は、削除処理をおこなう。
	99=テスト	10=売上 30=直送	0=店入 1=直送	各データ項目属性に従った属性チェックをおこな う。可能であれば、商品品番、直送先コード等の チェックを行い、テスト先へ結果を通知する。

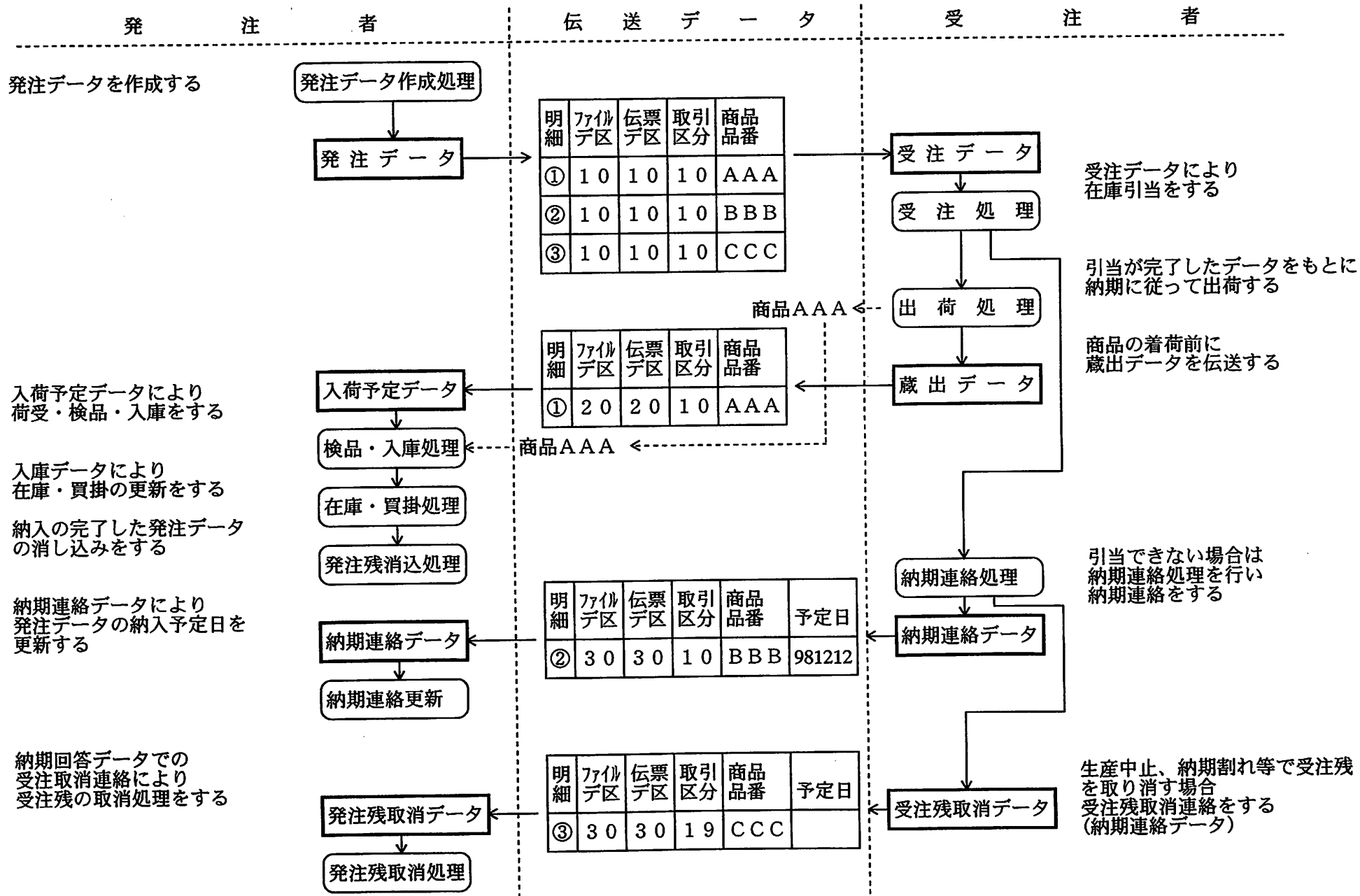
(納期連絡データ)

	伝票ヘッダー データ区分	取引区分	納入区分	内 容
ファイルヘッダー のデータ区分 30 納期 連絡	30=納期連絡	10=納期連絡	0=店入	出荷予定日の期日を設定
		13=納期訂正	元のデータ と同一内容	納期回答期日を変更する場合
		19=受注取消		生産中止/納期割れ等により、受注残を取り消 す場合
		30=直送 納期連絡	1=直送 3=未登録	直送先が未登録の場合、(商品は店入れとする)
	33=納期訂正 39=受注取消	元のデータ と同一内容	上記、13、19と同じ	
	35=納期回答 取消	元のデータと同一内容		VANからの受信時に同一ファイル内に取消対象 データが存在する場合は、削除処理をおこなう。
	99=テスト	10~39	0~3	各データ項目属性に従った属性チェックをおこな う。テスト先へ結果を通知する。

(蔵出データ)

	伝票ヘッダー データ区分	取引区分	納入区分	内 容
ファイルヘッダのデータ区分 20 蔵出 22 蔵出2	20=蔵出	10=売上	0=店入 2=納入済	仮伝、入日記等による納入の場合
		12=訂正後 売上	元のデータ と同一内容	数量訂正が発生した場合の訂正後の残高 (+) データ
		13=訂正後 売上		単価訂正が発生した場合の訂正後の残高 (+) データ
		18=売上訂正		数量訂正が発生した場合の訂正後の残高 (-) データ
		19=売上訂正		単価訂正が発生した場合の訂正後の残高 (-) データ
		30=直送		1=直送 2=納入 3=未登録
		32 33 38 39	元のデータ と同一内容	上記12、13、18、19と同じ
		= 直送 訂正		
		20=返品	2=納入	返品
		22 23 28 29	元のデータ と同一内容	上記12、13、18、19と同じ
	= 返品 訂正			
	40=直送返品	2=納入	直送返品	
	42 43 48 49	元のデータ と同一内容	上記12、13、18、19と同じ	
	= 直送 返品 訂正			
50=値引	5=物流無	値引き		
59=値引訂正	元と同一	値引きの訂正データ、残高(+)		
25=蔵出取消	元のデータと同一内容		VANからの受信時に同一ファイル内に取消対象 データが存在する場合は、削除処理をおこなう。	
15=受注取消	元のデータと同一内容			
99=テスト	10~49	0~1	各データ項目属性に従った属性チェックをおこな う。可能であれば、商品品番、直送先コード等の チェックを行い、テスト先へ結果を通知する。	

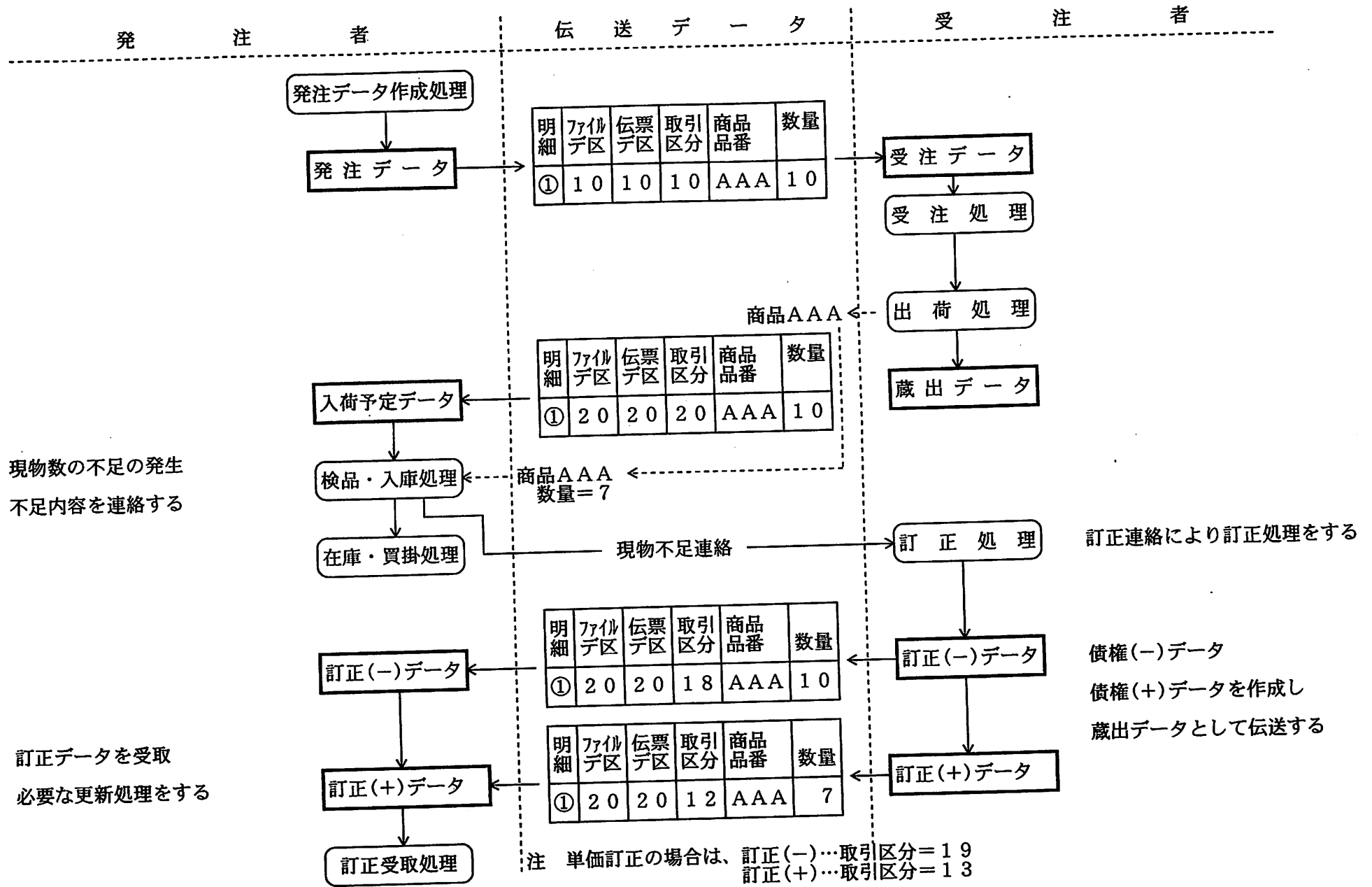
7. 9. 1. データの使用例(発注、蔵出、納期連絡)



(77)

7. 9. 2. データの使用例(蔵出訂正)

(8)



7. 9. 3. データの使用例(注残取消)

(9)

